

南アルプス市立八田中学校 前期自己評価書

平成25年8月22日(水)作成

学校長：奥山 邦次

記述者：教諭 清水 英樹

1. 校訓 「日日新」

2. 本年度の学校教育目標

「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成

は	励んで学び、確かな知識を持つ生徒	(知育)	→	知の力
っ	強い精神と身体を持つ生徒	(体育)	→	体の力
た	助け合い、いたわり合う心を持つ生徒	(徳育)	→	心の力

3. 学校経営方針

- (1)職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。
- (2)生徒理解を深め、一人ひとりの良さや可能性が活かされるよう努める。
- (3)教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。
- (4)家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。

4. 生徒の努力目標

- (1)授業にしっかり取り組もう（主体的・能動的・積極的に取り組めたか）
- (2)さわやかに挨拶をしよう（今日の、この出会いを大切に出来たか）
- (3)思いやりの心を行動につなげよう（相手の身になって考え行動できたか）
- (4)主体的に活動しよう（3本の木を大切にし創意工夫をもち取り組めたか）

5. 教師の努力目標

- (1)教育の原点を見つめ続ける教師（教育の本質）
- (2)自らの資質・能力の向上を求め続ける教師（研修 研究と修養）
- (3)謙虚・誠実・真摯に指導・対応する教師（教員としての姿勢 人間性）

6. 学校経営の努力点

- (1)調和の取れた人間関係をはぐくむ適切な教育課程の編成と実施に努める。
- (2)自ら学び、自ら考える学習指導に努め、確かな学力の向上に努める。
- (3)豊かな人間性を育み、心の安定を図る生徒指導に努める。
- (4)体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。
- (5)地域との連携を深め、開かれた、信頼される学校づくりに努める。

I 全体評価

1. 教職員の自己評価

(1) 本年度の特徴

《A・B（肯定的評価）において》

① A・B（肯定的評価）の合計が90%未満の項目について

「学校運営 3（79%）」「教育課程 3（87%）・5（87%）」

「生徒指導 6（87%）」と4項目で90%未満であった。

② A評価が10%以上向上した項目について

「生徒指導 2・4・5」「特別活動 1」以上4項目であった。

A評価が10%以上減少した項目について

「学校運営 1・2・3」「教育課程 2」「生徒指導 3・6」

「特色ある学校 2」以上7項目であった。

《C・D（否定的評価）において》

③ C（否定的評価）が10%増えた項目について

「学校運営 3・5」「生徒指導 6」

D（否定的評価）は、0項目であった。

④ C・D（否定的評価）の評価がまったくない項目

「学校運営 1・2・5・6」「教育課程 1・2」「生徒指導 1・2・3・4・5」

「特別活動 1・2・3・4」「特色ある学校 1・2」「開かれた学校 1」

以上18項目であった。昨年は18項目。

(2) 平成24年度より改善・向上した項目

昨年度は、「学校運営3」で否定的評価Dを選択した項目が1項目あったが、本年度は0項目である。

肯定的評価でAの数が10%増えた項目が4項目であった。

(3) 2学期の取り組み課題（自由記述より）

生徒会を中心に、挨拶運動を展開して成果をあげてきているが、積極的に挨拶ができなかったり、授業のはじめの挨拶がしっかりできないなどの課題が見られる。また、人の話を聞く姿勢や態度も指導していく必要がある。

真面目に取り組める生徒が多い反面、担任の指示なくしては動けない生徒が多いので、学級のリーダーを育て、自治活動ができるようにしていきたい。

学習や部活動を向上させるには、簡単にあきらめず、粘り強く取り組む姿勢を育てることが大切である。

2. 学校生活に関する生徒アンケート

(1) 本年度の特徴

A・B（肯定的評価）の合計が80%未満の項目（全校集計から）について

○全27項目中、4項目である。生徒が学校生活全般に渡り肯定評価している傾向が如実である。

4項目は以下に示す。

学校運営1.「あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか。」（72%）

教育課程2.「先生は、学習面（生活）でああなたの持っている力を伸ばしたり、努力の成果を評価していると思いますか。」（79%）

教育課程4.「あなたの学級会活動は、学校生活を向上させようと話し合いや取り組みをしているほうだと思いますか。」（77%）

特色ある学校2.「あなたは、数学のTT学習形態の授業（1・3年生）で、学習の成果が出ていると思いますか。」（78%）

※80%以下項目ではあるが「学校運営1」以外は80%に近い、また「学校運営1」においても昨年度も72%であった。

(2) 3年生の評価について 【昨年前期→本年前期】

① 2年次よりA・B（肯定的評価）が向上した項目について

27項目中19項目である。うち10%以上向上した項目は、6項目であった。

学校運営1.「あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか。」（56%→66%）

教育課程1.「各教科の先生は、基礎基本が身につくように、授業のやり方や教材を工夫していると思いますか。」（77%→89%）

教育課程2.「先生は、学習面（生活）でああなたの持っている力を伸ばしたり、努力の成果を評価していると思いますか。」（69%→83%）

生徒指導3.「先生どうし、先生と生徒、先生と保護者は、相互に協力して、生徒を良くしようとしていると思いますか。」（69%→80%）

特別活動3.「あなたは、生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組んでいますか。」（71%→85%）

学校生活全般2.「授業は全般的にわかりやすいと思いますか。」（70%→86%）

② 否定的評価（C・D評価）が高い項目（20%以上）について

4項目である。

学校運営1.「あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか。」（33%）

教育課程3.「先生は、道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしていると思いますか。」（22%）

生徒指導2.「先生は、生徒に正しいあり方を指導し、いけないことに対して素早く対応していると思いますか。」（22%）

特別活動1.「あなたは、進路学習や校外学習等に向けた取り組みなど、目標等を決め、主体的に学習していますか。（学習してきましたか。）」（22%）

*他の23項目は、A・B評価（肯定評価）がすべて80%以上であった。

(3) 2年生の評価について 【昨年前期→本年前期】

① 1年次よりA・B（肯定的評価）が向上した項目について

次の2項目である。

学校運営1.「あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか。」（76%→88%）

特別活動 1. 「あなたは、進路学習や校外学習等に向けた取り組みなど、目標等を決め、主体的に学習していますか。(学習してきましたか。)」(80%→83%)

②否定的評価(C・D評価)が高い項目(20%以上)について

0項目だった。

(4) 1年生の評価について

1年生の否定的評価(C・D評価)が高い項目(20%以上)は7項目であった。

学校運営 1. 「あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか。」(41%)

教育課程 2. 「先生は、学習面(生活)であなたの持っている力を伸ばしたり、努力の成果を評価していると思いますか。」(32%)

教育課程 4. 「あなたの学級会活動は、学校生活を向上させようと話し合いや取り組みをしているほうだと思いませんか。」(32%)

教育課程 5. 「あなたは、総合(合唱)をとおして音楽を愛好する心情が養われていると思いますか。」(22%)

生徒指導 6. 「あなたの休日(土日・祝祭日)の過ごし方は、充実していると思いますか。」(23%)

特色ある学校 2. 「あなたは、数学のTT学習形態の授業(1・3年生)で、学習の成果が出ていると思いますか。」(23%)

学校生活全般 1. 「学校生活は全般的に楽しいと思いますか。」(21%)

*他の20項目は、A・B評価(肯定評価)がすべて80%以上であった。

(5) 2学期の取り組み課題

- ① 「学校運営 1」については、「はった」を頭文字とする学校教育目標が各教室の前に掲示してあり、学活や集会・各種通信等、機会を捉え日々啓発している。しかし、今回の学校評価結果から、生徒への浸透が不十分であることが明らかになった。特に1・3年生には、具体的な目標もち諸活動に対して取り組んでいくためには、「どの目標を達成するための取り組みなのか」ねらいの明確化が弱かったと推察し、反省している。

今後、後期学校教育活動を通し、より意識をして学校生活が送れるよう、具体的な目標を持てるような働きかけを行うことが大切になってくる。学習面や部活動、また進路に対しては高い意識があるので、学校目標に対する具体的な関連づけができるよう、明確に狙いを持って取り組んでいく。今後も生徒達の「知・徳・体」の調和のとれた育成に尽力していきたい。

- ② 2年生の肯定的な評価が、昨年度に比べ下がってきている。昨年度はどの項目も非常に高い90%を超える評価になっていた。中学校生活にもなれ1年次の時のような緊張感が緩んだ結果となって現れてきていると思われる。評価が下がったが、80%を超える評価になっている。しかし否定的な評価をした生徒に対して、学校運営・教育課程・生徒指導・特別活動等さまざまな点で、日々の指導に力を入れ、一人ひとりの生徒に対応していく必要がある。

- ③ 1年生の否定的な評価の高い項目の対応については、「学校運営 1」「教育課程 2」「教育課程 3」と中心に重点を置き、学校教育活動全体で意識を持って取り組んでいく必要がある。

中学校生活が始まって3ヶ月が経過したが、入学後の「とまどい」「不安」なども影響してきている部分もあると考える。学校生活にもなれ、徐々に落ち着きを見せて来た現状から、さらに2学期は数々の学校行事を共にこなす過程で、学級の絆・信頼感・連帯感を培わねばならない。今回の結果を真摯に受け止め、2年生に向かう後期は肝心な時期と心得、学校教育活動全体で組織的方策を見出し、実践していきたい。

II 項目ごとの評価と具体的改善策

学校運営について

自己評価	分析及び改善策
(1) 「学校運営 1 学校目標の達成のための具体的努力」は生徒の72%が肯定的、28%が否定的であった。その他は87~97%と極めて高い肯定評価である。教師はほぼ100%が肯定している。	(1) 「学校目標」は、教室内の最も目にしやすい場所に掲示してある。しかし、目標の大切さが生徒達に浸透できていない。学校・教師の意図を具体的に個人の努力目標に細分化するまでの努力を要する。
(2) 「学校運営 2 合唱・部活動・応援に力を入れている」が肯定的評価が97%を超える高い評価になっている。教師も100%である。	(2) 本校の教育活動の特色として「三本の木」(合唱・部活動・応援)を伝統として受け継ぎ、生徒たちの意識も非常に高まっている。この意識をさまざまな面に発揮して個人の力を引き出すことが、学校教育目標に対する意識の向上に繋げることができる。
(3) 「学校運営 3 活動の様子をおたより等で伝えて	(3) 学校・学年・学級通信を始め保健・図書等各分掌から

いる」では、教師の否定的な評価が21%（3人）である。生徒は89%となっている。

(4)「学校運営4 校舎内外の施設設備は充実しているか」教師・生徒とも高い評価になっているが、安全面にかかわる重要な項目である。可能な限りのソフト・ハード面の充実を図ってきた。学校の現状を考慮すればまだまだ不十分であるが、現状ベストの評価であろう。

も定期的に発信されており、保護者に生徒の様子を十分に伝えている。学級担任の中には、行事等が重なり学級通信が遅れるなどの反省も出ていた。今後は、ただ配布するだけではなく、学活・集会等で通信の内容に触れるなどしながら配布できればより家庭にも伝わっていくだろうと考える。

(4)「安全対策」は、避難訓練・防犯教育・安全教育等今後も継続し、さらなる対策を講じてより安全で安心な学校にしていかなければならない。また、自転車安全走行や下校時刻厳守等、生徒の自己管理意識にも課題もある。特に今年度は、6月の後半から38度を越える猛暑が続く中、生徒たちは活動を続けてきた。しかし異常ともいえる暑さの中では、生徒の体調不良が懸念される。また、生徒・教師から教室のエアコン設置の要望が多く書かれていた。

教育課程について

自己評価

- (1) 教育課程の6項目は生徒の77～88%が、教師は86～100%が肯定している。
- (2)「教育課程1 基礎基本が身につくように」教師100%、生徒が88%であった。
- (3)「教育課程3. 4. 5. 6 道徳・学級活動・総合的な学習にかかわって」教師・生徒ともいずれも高い評価になっている。

分析及び改善策

- (1) 授業時数の確保については、各校でも課題となっている。本校においても、行事等の関連から、できる限り授業時数の確保という点で、短縮授業を導入している。しかし、短縮授業の多用により授業時数確保という点で、課題がある。行事等の見直しを図りながら、短縮授業極力減らし、授業時数の確保に努めたい。
- (2) 基礎基本を身に着けることが、学習意欲を高めることに繋がっていく。
教育課程では「確かな学力」を重要な要素として考え、校内研究において指導法の研究を深める取り組みを進めている。さらに、学習習慣を身に着けるため、各教科担任は個人のそれぞれのつまづきを把握し、支援手だてを指導しなければならない。
- (3) 道徳心を身につける道徳の授業確保が、各校の課題となっている。人間関係が希薄になってきている現代において心を育てることが、課題となっている。そこで、道徳の授業を確保し、講師を招いての人生講話を聞くなど幅広い視点から個々の力を伸ばしたい。
また、リーダーを育てるためには、集団活動の中でどのように自信を付けさせ、意欲的に活動させるかが鍵となってくる。合唱集会や学園祭・合唱コンクール等の取り組みを通して、リーダーの育成や話合いの方法定着等、基本に立ち戻り「質の高い集団づくり」を目指したい。
総合学習の時間においても、教育課程にそった計画で授業が進められている。体験的・実践的な教育活動を通して学ぶ点は数多くある。さらに、目的や活動内容が明確に生徒達に伝わって取り組むことが大切である。

生徒指導について

自己評価

- (1) 生徒指導の6項目は生徒の82～90%が、教師は各項目87%～100%が肯定している。「基本的生活習慣」の90%。もっとも低いのは「正しいあり方を理解しているか」82%である。
- (2)「生徒指導6 休日の過ごし方について」教師は87%生徒は85%である。

分析及び改善策

- (1) 生徒指導上の課題は様々であるが、心の教育が叫ばれて「いじめ問題」などより大切な事項として掲げられている。近年中学生と言えば「自他への敬愛」欠如や携帯・ネットによるトラブル等潜在化傾向が指摘されている。本校も例外ではない。生徒指導上の問題は、その場に応じて臨機応変に誠意を持ってすぐに対応することが大切である。本校では学年だけでなく、情報交換を密に全校体制で取り組んでいる。本年度から本格的に導入された、校務支援ソフトを活用し、日々変化する生徒の様子を担当・教科担任・養護教諭が入力し、管理職・学年外教師からも閲覧することができるようになった。
このような情報を元に、時間を見つけて生徒との対話を仕組んでいく意識を継続することが必要である。
1学期末には県警少年課指導官による学習会を開催し、課題を共有した。一人ひとりの「心の居場所」の確

保も肝心である。

「基本的生活習慣」については、生徒に肯定評価が高い。「あいさつをする。」「時間を守る。」「家庭学習をする。」「提出物を出す。」等、日常的に教師が指導し生徒が努力しながら、「誇り」として根付き、一層向上していくことを期待したい。話をきく前後に「おねがいます。」「ありがとうございます。」という挨拶ができることも本校ならではの習慣であり、誇れる伝統の継承を意識させたい。

(2) 休日の過ごし方には、生徒達は部活動に積極的に参加し、休日に行われる大会・練習試合等充実した時間を過ごしている。休日の過ごし方や休日後の生徒の様子を聞くなどしながらさらに意識を高めたい。

特別活動について

自己評価

- (1) 特別活動の4項目は生徒の80～88%が、教師は各項目とも100%が肯定している。
生徒の肯定評価は、学校行事・部活動・生徒会活動の意識が高くなっている。
- (2) 「特別活動1進路学習や校外学習の主体的性」では、評価が低くなっている。

分析及び改善策

- (1) 本校での三本の木の一つである部活動は、学校生活において及ぼす影響は多大である。この伝統を受け継ぎ、後期は下級生へとバトンが渡るよう指導したい。
学園祭・新人戦・定期演奏会と活動成果が問われる機会がある。今後各部毎にC (check)・A (action)を重点的に行い、生徒の良さと活力を生み出す活動にしていきたい。
- (2) 進路と言えば3年生がメインになってくると思われがちだが、教育課程においては1年生から進路学習が始まっている。3年生になれば、高校選択という大きな岐路に立たされ、さらなる悩みを抱えることは明白である。しかし、その時になって困らぬよう、1年生から計画的に進路学習を進めていくことが必要である。

特色ある学校について

自己評価

- (1) 「合唱活動」は本校特色の筆頭に挙げられる。
生徒の90%、教師は100%が肯定評価をしている。
- (2) 「数学少人数学習形態の授業」は、生徒の78%
教師は100%が肯定評価をしている。

分析及び改善策

- (1) 年間を通して行われる合唱の取り組みだが、2学期が山場を向かえる。1学期の「独唱・合唱集会」の反省生かしながら、学園祭・コンクールと伝統である「合唱」の継承と新たな試みが展開されればと思う。
歌うことを楽しいと心から表現できる生徒の育成は課題である。日々の取り組みを通して歌うことの楽しさを伝えられるよう努力していきたい。
- (2) 1・3年生が対象となる「数学におけるTT学習形態」はおおくの先生方の協力を得ながら進められている。大切なことは、基礎基本が身につけられるよう一人ひとりの生徒に対応していきたい。

開かれた学校について

自己評価

教職員のA・B評価が100%。生徒のA・B評価は86%である。

分析及び改善策

本校では年3回の学校開放を実施している。その中でも来校数をもっとも多いのは、学園祭や合唱コンクールなどの学校開放日である。子どもの成長した姿や活躍する姿を見る楽しみは来校の明確な目的である。
今後は、学校行事でなく学校開放日の回数を見直し、より多くの来校者が訪れるよう、生徒・保護者に啓発していきたい。

学校生活全般

自己評価

- (1) 「学校生活が楽しい。」では1年生がA・B評価で79%に対し、2・3年生が89%。全校では81%。
- (2) 「授業はわかりやすい。」では1年生がA・B評価で81%に対し、2年生は85%、3年生86%。全校では82%。
- (3) 2年生は昨年1年生前期と比較すると「学校生活が楽しい。」はA・B評価で【93%→89%】
「授業はわかりやすい。」は【92%→85%】とともに

分析及び改善策

生徒達にとって、「学校生活が楽しい。」「授業がわかる。」ことがまずは一番であると考え。1年生の生徒達も、早く学校に慣れ、より楽しい学校生活を送れるよう学年や学級単位の活動を生かして、全校職員のバックアップ体制が要求されている。
回答には「学校が楽しくない」もしくは「授業がわからない」と回答した生徒がいる。そのような生徒を引き上げられるよう、時間をかけて対話を重ね、教職員は意識して、生徒一人ひとりの心の声を聞く姿勢で生徒に対応

低下。3年生は、昨年の2年時前期と比較すると、「学校生活が楽しい。」【84%→81%】。「授業はわかりやすい。」は【70%→86%】となっている。

していきたい。「わかる授業」「楽しい学校」を創造することがより求められている。

Ⅲまとめ(成果と課題)

この学校評価では評価基準として教職員自己評価のA・B評価が90%以上、生徒アンケートのA・B評価が80%以上に設定した。この基準からは「肯定感と満足感」が伝わり、大きな教育成果のひとつとなる。

3年生は前年に比べて多くの項目が向上しており、これまでの2年間の成果が確実に表れている。特に、授業に対する面での取り組みについては大きく成長している。反面、進路に向けての意識がやや低下している。進路指導をしていく中、家庭と連携して取り組むことが必要である。

2年生の評価は1年次と比較すると下がりぎみの項目が見られた。しかし、まだまだ80%を越える高い評価が出ている。さらに個々に目を向けることを忘れずに、学級担任はもとより、全校職員が心してさまざまな場面を捉え声を掛けたり、深いかかわりを持って行くことが大切であるといえる。

1年生の評価はいくつかの項目に焦点を絞って、指導していく必要がある。特に、学校教育目標の意識化を図り、目標を本に行動する生徒達に育てていくことは必要である。日頃から常に目標を意識した活動を展開することでより高い目標をもち、学校教育目標により近づく生徒を育てたい。

全国的にも中学校での「いじめ」が大きく取り上げられている。全教職員がひとつになり、生徒の心の声に耳を傾け、生徒に寄り合いながら、心を通い合せることが大切である。「いじめを絶対許さない」という強い信念に立ち、地域・家庭と積極的に連携していく必要性を切に感じる。「いじめ」は起こりうるという大前提に立ち、早期発見・早期解決に心がけ、心の教育のより一層の充実を図っていきたい。